

SQL*PLUSの使い方

1. 起動方法

スタート → Oracle<オラクルホーム名> → アプリケーション開発 → SQL*PLUS
もしくは、

スタート → ファイル名を指定して実行 → sqlplus.exe

ログインまでの一括指定

```
sqlplus username/password@net_service_name
```

↑

※ net_service_name は、tnsnames.ora ファイル (Oracle ホーム¥network ¥admin¥ディレクトリ) で設定した接続用のサービス・ネーミング名

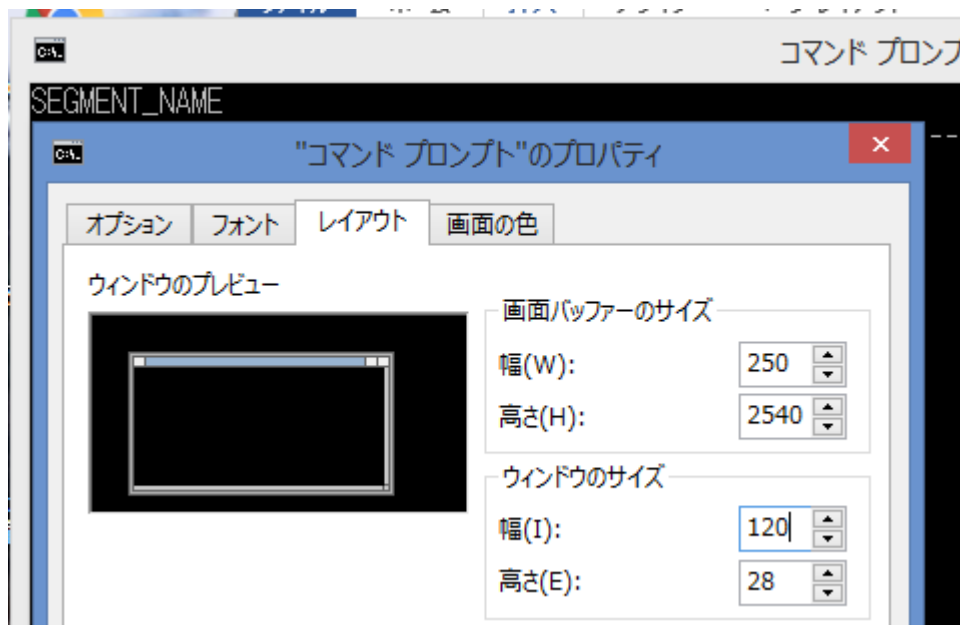
※ Oracle Net Manager で設定した名前

```
sqlplus username/password@サーバー名 : 1521 / Oracle の SID 名
```

SYS ユーザーでログインする場合は、as sysdba を付けること

```
sqlplus sys/password@net_service_name as sysdba
```

2. コマンドプロンプト画面の環境変更内容



画面バッファのサイズ

幅 スクロールさせて表示される 1 行の文字数

高さ 実行結果を戻って表示させたときの、戻れる行数

ウィンドウのサイズ

幅 黒い画面で一度に表示されている文字数幅

高さ 黒い画面で一度に表示されている行数

3. 環境セットコマンド（設定変更と設定値表示）

SET システム変数 値

SHOW システム変数 or ALL

説 明	設 定
列と列の間に表示する文字列を指定する	SET COLSEP 文字列
SQL 実行後の表示スクロールを、途中で止めるかの制御	SET PAUSE ON/OFF
画面表示スクロールを、途中で止める時の行数	SET PAGESIZE 数値
SQL 実行後の 1 レコードの表示文字数	SET LINESIZE 数値
1 ページへの最大出力行数	SET pages 数値
ページへの出力列幅数	SET lin 数値
コマンドの実行時間の表示	SET TIMING ON
現在の時刻を表示させる	SET TIME ON
列の区切り文字変更	SET COLSEP 文字
SQL 実行後に列名表示させるか	HEADING ON/OFF
SQL 実行後に対象のレコード件数を表示させるか	FEEDBACK ON/OFF
実行後の結果表示を画面に行うかどうか	TERMOUT ON/OFF
スクリプトファイル内で実行したコマンドの内容を画面表示させるか	ECHO ON/OFF

出力する列に対する書式設定

CLUMN 列名 オプション

説 明	設 定
表示巾を指定数値バイトにする	CLUMN 列名 a 数値
数値表示の桁数 と少数点以下桁数	CLUMN 列名 99999.99
値が NULL であった時に表示する内容	CLUMN 列名 NULL 文字列
値が表示幅より長い場合は、切捨てる	CLUMN 列名 TRUNCATED
値が表示幅より長い場合は、折返し表示	CLUMN 列名 WRAPPED

4. ファイル関連コマンド

説 明	設 定
出力結果を、ファイルへ書き込みませる	SET SPOOL ファイル名
ファイルへの書き込みを終了させます	SET SPOOL OFF
ファイル内の SQL 文を実行します SQL スクリプト用別ファイルの使用方法	@ファイル名
出力結果を、コマンド画面に表示させない ※ SET SPOOL ファイル名 と共に使用する	SET TERM OFF

5. 注意事項

SQL 文の実行には、; の記述が必要

SQL*PLUS がインストールされていない端末から SQL 文を実行する場合、Oracle Enterprise Manager (Web ブラウザ・コンソール) で、SQL ワークシートを使って SQL 文実行ができます。

6. 補足事項

スクリプトの中の DBMS_OUTPUT.PUT_LINE('固定表示文字列'); 文による画面出力が、表示されない

→ SET SERVEROUTPUT ON; ステートメントを追加する